設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:14（52%）　②:11（41%）　③:2（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:17（63%）　②:10（37%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:17（63%）　②:8（30%）　③:1（4%）　④:0（0%）　未回答:1（4%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:23（85%）　②:4（15%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:15（56%）　②:10（37%）　③:2（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:25（93%）　②:2（7%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:21（78%）　②:6（22%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:16（59%）　②:9（33%）　③:2（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:16（59%）　②:11（40%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:12（44%）　②:12（44%）　③:3（11%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　8（30%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　6（22%）

③他大学の FD 活動の視察：　4（15%）

④その他：　5（19%）・・・「教科書作成」3、「他大学の FD 報告書を読んだ」、「留学生たちとのコミュニケーションをベースに」

未回答：　7（26%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　11（41%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　15（56%）

③他大学の FD 活動の視察：　11（37%）

④その他：　3（11%）・・・「教科書作成」3

未回答：　8（30%）

設問 16　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　　回答：5 クラス（順不同）

[1] 今年度は学生の反応や、学生からの意見などをまめに把握しながら授業を進めた。

「出席カード」というものを作成しているが、その裏面に、授業の理解度や、わかりにくかった点、また、感想を書いてもらい、授業後に確認するようにした。

授業内で質問できなかったような学生に対しても、そのカードへの書き込みから、クラス全体へのフィードバックが可能になった。

・・・3 クラス

[2] 昨年度までは、「日本文化」をテーマとするプレゼンテーションを推奨していたが、今年度は、幅広いテーマを「日本語で」紹介するものも可とした。

[3] 昨年度は、１つのテーマを取り上げる期間が長過ぎるという回答があったので、今年度は、短くした。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　10 クラス（順不同）

[1] 上述したような、「出席カード」を活用して、学生からの反応、意見の把握に努めた点は評価できると考える。

また、試験前には、試験用の対策プリントを作成して、テスト勉強を通して学生が要点を再把握でき、さらには、テストの準備にも役立てられるようにした。

映像やゲームなども取り入れることで、授業にメリハリをつけられたと考えている。

・・・3 クラス

[2] 自分は全力投球の気持ちで学生(教室)に向かっています。楽しくなるように自分なりに努力しています。合わない学生もいるかもしれませんが。・・・2 クラス

[3] 学生からは、日本語を使用して PPT スライドを作成するのは、時間がかかり負担が大きいという声もきく。内容をやさ

しいものにし、ハードルを下げる必要があると考えている。一方で、時間をかけて作成することにより日本語運用力がつくので、できる学生には、チャレンジを促していきたい。

[4] ４つある上級の授業のうちで、この授業に関しては、日本語で発表する際に、正確さを厳しく要求している。他の授業では、流暢さを重視しているので、差別化されており、この授業を受講する学生は、授業の特性を理解して履修している。正確さという側面で、実力がつく授業であると考えている。

[5] 海外を含む他大学の日本語学習者、日本人学生と、文章表現を通じて交流するという活動は、あまりないので、活動自体に意味がある。

[6] 新聞記事を読むという、オーソドックスな上級レベルの読解授業であるが、発表学生を決め、ディスカッションの司会をさせている点で、一方通行にならない授業になっていると考えている。

[7] 三人で担当するオムニバス形式でしたが、担当者それぞれが自分の専門との関連で、「日本事情」と関わることのできるものを留学生に提供することにしました。そして最後に、学習の成果を表現する場として、発表会・展示会を実施すること、またその会までに各グループで練習・下調べを行うことを課しました。

結果として、留学生たちののびのびした発表と作品展示・実演があり、授業を参観された先生からも学生自らが動く「アクティブ・ラーニング」として評価を受けました。

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　25（93%）　　②いいえ：0（0%）　　未回答：　2（7%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　23（83%）

②読んで理解する：　22（81%）

③自分の考えをまとめて話す：　9（33%）

④自分の考えを文章にまとめる：　6（22%）

⑤討論する：　0（0%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　0（0%）

⑦その他：　3（11%）　　「ノンバーバルな他者とのコミュニケーション」3

未回答：　2（7%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　13 クラス（順不同）

[1] グループ学習によって授業時間内に外国語を話す機会を設けた。･･･3 クラス

[2] 外国語（中国語）の学習を通して、実際に簡単な中国語を使えるようになるだけでなく、ノンバーバルなコミュニケーションでも重要

となるであろう、言語によるコミュニケーションの背景にあると考えられる異文化理解や、ノンバーバルな他者とのコミュニケーションについても、授業内で取り上げた。

例としては、教科書の会話文などに出てくる家族構成への言及のフレーズなどを通して、中国人は他人と親しくなりたい場合に、個人的事情にも深く踏み込んでくることなどを紹介した。

・・・3 クラス

[3] 主に会話をすることです。

[4] テキストのモデル会話の応用練習に「聞き返す」を加え、より実際の会話に近づける工夫をした。

[5] 学生に、興味のあるテーマで、日本語による PPT スライドを作成させ、日本語で発表させている。必ず、ディスカッションの時間を設け、発表者にディスカッションのポイントを板書させ、司会もおこなわせている。これらにより、日本語によるコミュニケーション能力の向上を図っている。

[6] この授業では、日常生活のコミュニケーションの中から、新しく覚えた語を収集してくるので、日本語による日常的なコミュニケーション能力を高めることができる。クラス内でも、調べて言葉の報告など、発表を聞き合うことで、コミュニケーション能力を高めている。

[7] 海外を含む他大学の日本語学習者、日本人学生が、対等な立場で、文章表現を通じて、コミュニケーションをおこなっている。

[8] 新聞記事を読むという、オーソドックスな上級レベルの読解授業であるが、毎回必ず、ディスカッションをおこなっている。学生を司会者とすることで、意見をいいやすい雰囲気を作り、コミュニケーションが活発化するよう、工夫している。

[9] 留学生対象ですので、とにかく、授業の中のあらゆる機会に、日本語で話す・書く、日本語を読む・聞く活動を取り入れました。

お互いの作品等を批評しコメントする機会も設け、それも日本語で伝えることとしました。

多国籍の留学生たちでしたので、お互いの共通言語が日本語となって、活発に意見や感想の交換ができたようです。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　2（7%）　②いいえ：　19（70%）　未回答：　6（22%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　1（4%）　②６～10 回：　0（0%）　③11～15 回：　1（4%）

未解答：25（93%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（**複数回答可**）

①歴史・文化：　0（0%）　②政治・経済・産業：　0（0%）　③自然環境・フィールド体験：　0（0%）

④その他：2（7%）・・・「方言」「留学生としての宮崎体験」　未回答:　25（93%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　2 クラス（順不同）

[1] この授業は、留学生が、日常生活の中で新しく学んだ言葉を書留、意味を調べ、発表するというものである。方言の収集も奨励している。アルバイトなどで、方言に触れる学生も多いので、貴重な方言習得の場となっている。

[2] 留学生が宮崎（大学）で体験したことを、カルタや俳句・短歌に表現させました。